

(お知らせ)

令和6年9月26日
防 衛 省

米軍再編に係る三沢飛行場から千歳基地等への訓練移転について

米軍再編に係る三沢飛行場から千歳基地等への訓練移転（日米共同訓練）を下記のとおり実施しますので、お知らせします。

今般の訓練移転は148回目～150回目です。

国内への訓練移転は、平成18年5月の「再編の実施のための日米ロードマップ」に基づき、二国間の相互運用性の向上と米軍飛行場における訓練活動の影響の軽減のために行われるものです。

記

1. 三沢飛行場から千歳基地への訓練移転

(1) 訓練期間：令和6年10月21日（月）～11月1日（金）

※ 訓練期間の前後に、訓練参加機及び人員・物資の輸送機の展開・撤収が行われる予定

(2) 使用基地：航空自衛隊千歳基地

(3) 使用空域：北海道西方空域、三沢東方空域

(4) 訓練内容：戦闘機戦闘訓練等

(5) 参加部隊：(米 軍) 第35戦闘航空団（三沢）
(自衛隊) 第2航空団（千歳）

(6) 参加規模：タイプⅡ

(米 軍) F-16×12機程度、人員180名程度

(自衛隊) F-15×12機程度

2. 岩国飛行場から小松基地への訓練移転

(1) 訓練期間：令和6年10月28日（月）～11月1日（金）

※ 訓練期間の前後に、訓練参加機及び人員・物資の輸送機の展開・撤収が行われる予定

(2) 使用基地：航空自衛隊小松基地

(3) 使用空域：石川沖空域、北海道西方空域、三沢東方空域及び四国沖空域

(4) 訓練内容：戦闘機戦闘訓練等

(5) 参加部隊：(米 軍) 第12海兵航空群(岩国)
(自衛隊) 第6航空団(小松)

(6) 参加規模：タイプⅡ
(米 軍) F A-18×6機程度、人員80名程度
(自衛隊) F-15×8機程度

3. 嘉手納飛行場から築城基地への訓練移転

(1) 訓練期間：令和6年10月21日(月)～11月1日(金)
※ 訓練期間の前後に、訓練参加機及び人員・物資の輸送機の展開・撤収が行われる予定

(2) 使用基地：航空自衛隊築城基地

(3) 使用空域：山口沖空域、九州西方空域、四国沖空域、

(4) 訓練内容：戦闘機戦闘訓練等

(5) 参加部隊：(米 軍) 第18航空団(嘉手納)
(自衛隊) 第8航空団(築城)

(6) 参加規模：タイプⅡ
(米 軍) F-16×10機程度、人員180名程度
(自衛隊) F-2×8機程度

※ 本内容については、今後、変更される場合があります。

**「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する
連絡協議会」での口頭要請事項**

●北海道、千歳市、苫小牧市の三者で構成する

「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する連絡会議」としての要請

- 1 土曜日・日曜日及び早朝・深夜の訓練を実施しないことなど、これまでの両市との協議経過を踏まえ、協定の内容を確実に遵守すること。
また、米軍帰還に際しても、土曜日・日曜日及び早朝・深夜に飛行することのないよう配慮すること。
- 2 自衛隊が通常使用している訓練空域や飛行経路、飛行方法によること。
- 3 米軍人の外出時等の対応など本道滞在中における規律の維持に万全の対応を行うこと。
- 4 訓練期間中は、貴局において騒音測定を実施するとともに、できる限り早期に結果を公表すること。
- 5 訓練の安全管理及び参加する戦闘機の整備・点検など安全確保に万全を期すこと。
- 6 説明会や米軍ブリーフィング等の開催など、訓練に関する情報を住民、自治体、報道機関に詳細に提供すること。
- 7 訓練終了後の「検証」を必ず行うこと。
- 8 これまで実施された訓練移転によって、沖縄の負担がどの程度軽減されたのか、期限を決めて目に見える形で検証すること。

●苫小牧市の個別要請

- 1 米軍外来機における飛来訓練等の抑制など、沖縄県の方々が負担軽減を実感できるように努めること。
- 2 千歳基地では、航空機からの部品落下が繰り返し発生していることから、米軍機を含む機体の整備、点検強化を図るとともに、事故が発生した場合は、原因究明及び再発防止策について速やかに情報提供を行うこと。



令和6年9月26日
統合幕僚監部

令和6年度日米共同統合演習（実動演習）
「K e e n S w o r d 2 5」について

自衛隊と米軍は、下記のとおり令和6年度日米共同統合演習（実動演習）を実施します。
本訓練は、強固な日米同盟の下、日米の即応態勢及び相互運用性を向上させるものです。
自衛隊と米軍は力による一方的な現状変更の試みは断じて許さないという強い意志の下、あらゆる事態に対応するための抑止力・対処力を強化し、我が国の防衛及び地域の平和と安全の確保に寄与していく考えです。

記

1 演習の目的

我が国防衛のための日米共同対処及び自衛隊の統合運用について演練・検証し、共同統合運用能力の維持・向上を図る。

2 実施時期（基準）

令和6年10月23日（水）～11月1日（金）

3 実施場所（基準）

- （1）自衛隊施設、在日米軍施設及び区域
- （2）民間空港・港湾
- （3）奄美大島、徳之島、沖永良部島、我が国周辺海空域等

4 主要訓練項目

- （1）主要部隊司令部における指揮所活動
- （2）共同統合対艦戦闘
- （3）統合強制進入作戦（水陸両用作戦・空挺作戦等）
- （4）統合防空ミサイル防衛
- （5）島しょ防衛
- （6）海上交通の安全確保
- （7）重要施設等防護
- （8）統合後方補給・衛生
- （9）統合指揮通信システム
- （10）領域横断作戦の深化

5 演習参加部隊等

(1) 自衛隊

ア 統合幕僚監部、陸上幕僚監部、海上幕僚監部、航空幕僚監部、情報本部及び
自衛隊サイバー防衛隊

イ 陸上自衛隊

陸上総隊、各方面隊等

ウ 海上自衛隊

自衛艦隊、各地方隊等

エ 航空自衛隊

航空総隊、航空支援集団、宇宙作戦群等

(2) 米 軍

インド太平洋軍、太平洋陸軍、太平洋艦隊、太平洋空軍、太平洋海兵隊、在日米
軍、インド太平洋宇宙軍等

(3) 同志国

豪軍及び加軍

6 演習参加規模

(1) 自衛隊：人員約 33,000 名、艦艇 約 30 隻、航空機約 250 機

(2) 米 軍：人員約 12,000 名、艦艇 約 10 隻、航空機約 120 機

7 その他

(1) 日米共同統合演習は昭和 60 年度に開始され、概ね毎年、実動演習と指揮所演習
を交互に実施。実動演習は今回で 17 回目にあたる。

(2) 豪州、加国、仏国、独国、印国、伊国、リトアニア、蘭国、新国、比国、韓国、
西国、英国及び N A T O からオブザーバーを招へい予定

令和6年度日米共同統合演習(実動演習)について

【演習の目的】

我が国防衛のための日米共同対処及び自衛隊の統合運用について演練・検証し、日米共同統合運用能力の維持・向上を図るために実施します。

【演習の沿革】

日米共同統合演習は昭和60年度から開始され、概ね毎年、実動演習と指揮所演習を交互に実施しています。本年度は実動演習であり、今回で17回目の実施となります。

【演習の実施場所】

日本周辺海空域、自衛隊施設、米軍基地等において、様々な訓練を実施します。

【演習の実施期間】

令和6年10月23日(水)～11月1日(金)の間(前後に準備期間及び撤収期間を設定)で予定しています。一部には夜間及び土日を含む演習となりますが、皆様の生活に支障がないよう十分に配慮いたします。

【演習の内容】

演習の目的に基づき、我が国防衛のための自衛隊及び米軍の行動を演練します。このため、陸上、海上、航空作戦及び統合輸送等の全てを包含した総合的な演習となります。我が国防衛のための自衛隊の即応性及び日米間の連携能力を向上させることを通じ、皆様の安全・安心確保に資することができるものです。

令和6年度日米共同統合演習(実動演習)について

その他関連する訓練

- 統合後方補給
- サイバー攻撃等対処
- 協同基地等警備
- 宇宙状況監視に係る連携
- 統合電磁波作戦訓練



統合防空ミサイル防衛訓練



空挺作戦



水陸両用作戦



統合対艦攻撃訓練



※九州及び沖縄におけるシミュレーション訓練を含む。

令和6年度日米共同統合演習(実動演習)の 北海道における訓練について

同演習において実施する北海道内の訓練は、

- ① 陸上作戦(実弾射撃訓練)
矢臼別演習場、計根別着陸場
- ② 航空作戦(統合防空ミサイル防衛訓練、統合対艦攻撃訓練、高射部隊展開訓練)
千歳基地、奥尻分屯基地
- ③ 統合後方補給・衛生訓練(補給品輸送輸送)
陸自近文台分屯地、白老駐屯地、安平駐屯地
- ④ 統合電磁波作戦訓練
留萌駐屯地

を予定しています。

訓練内容は調整中であり、今後調整により変更の可能性があります。

北海道内で実施を計画している訓練内容

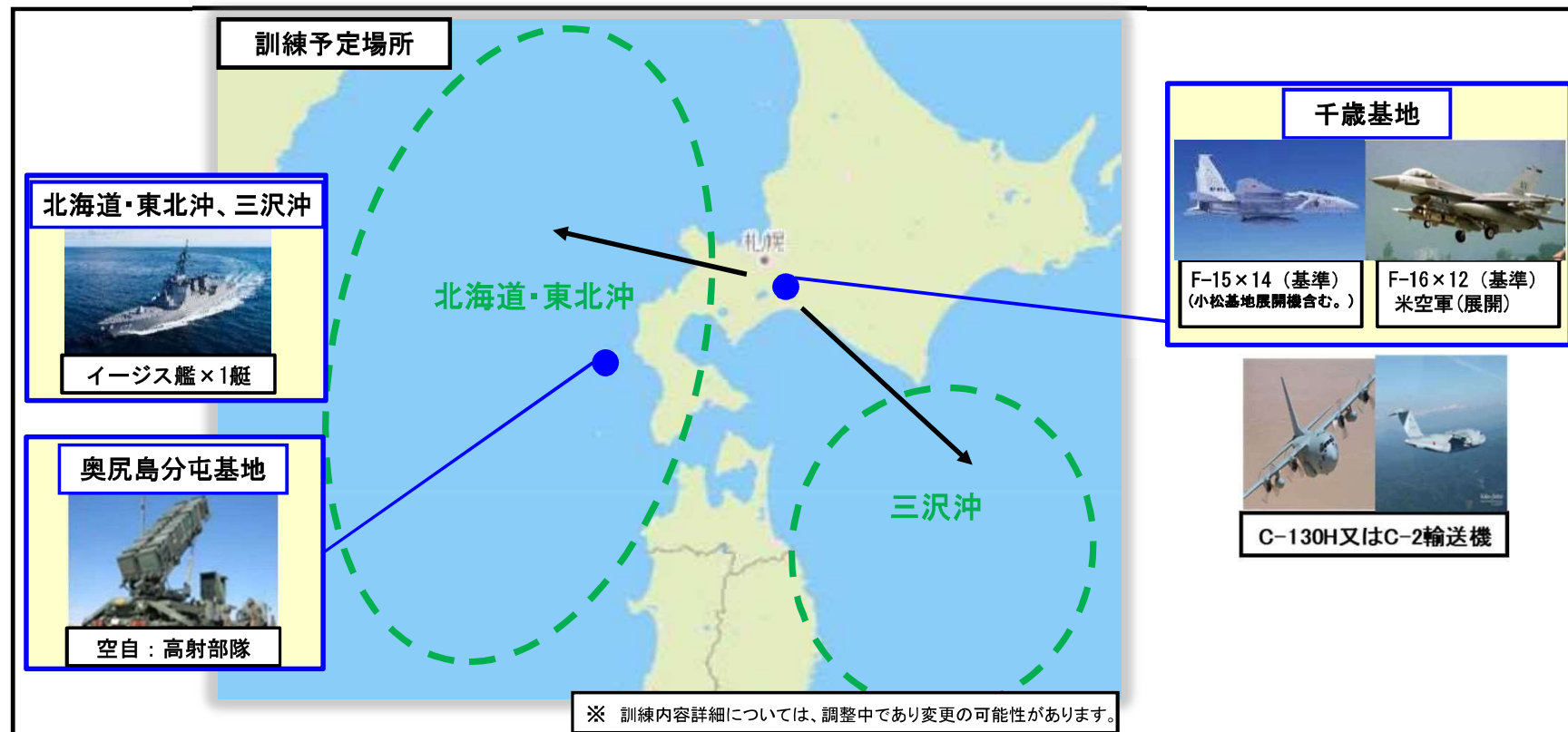
②航空作戦(統合防空ミサイル防衛訓練、統合対艦攻撃訓練、高射部隊展開訓練)

海上自衛隊のイージス艦、航空自衛隊の航空部隊等及び米軍等が北海道・東北沖及び三沢沖で実施される統合防空ミサイル防衛訓練、統合対艦攻撃訓練及び高射部隊展開訓練に参加し、対処・連携要領を演練します。

【期 間】 令和6年10月23日(水)～11月1日(金) (土、日曜日を除く。) ※10/29(火)、10/30(水)は夜間飛行を実施予定

【参加部隊】 海上自衛隊:イージス艦 航空自衛隊:航空部隊、高射部隊、輸送機部隊、米空軍

※ 訓練期間前後及び期間中、人員及び装備品等の輸送のため、輸送機(C-130H又はC-2)の運航を計画する可能性があります



令和6年度日米共同統合演習（実動演習） 「K e e n S w o r d 2 5」に関する申入れ

9月26日に公表されました、令和6年度日米共同統合演習（実動演習）「K e e n S w o r d 2 5」につきましては、日米共同統合運用能力の維持・向上を図るものとされており、理解する必要があると考えますが、訓練が実施されることは、航路下地域へ騒音等の影響が増大されるとともに、市民生活に不安や支障を与えることが懸念されます。

つきましては、市民の安全確保と生活環境を守るため、下記の事項について、最大限の配慮と万全の措置を講じることを強く要望いたします。

記

- 1 共同訓練の実施にあたっては、戦闘機等の点検整備など、国の責任において徹底した安全対策を講じるとともに、事件・事故の防止などに万全を期すこと。
- 2 これまでの航空自衛隊の運用と同様に、市街地上空飛行及び低空飛行を避けるとともに、土日及び深夜早朝の飛行について配慮すること。
- 3 戦闘機等の飛行に際しては、騒音の低減に配慮するとともに、騒音測定を行い、結果について速やかに公表すること。
- 4 米軍人の外出時等の対応など、滞在中における規律維持に万全の対応を行うこと。
- 5 訓練等の情報について、可能な限り早期に情報提供すること。

令和6年9月27日

北海道防衛局長 福島 邦彦 様
航空自衛隊千歳基地司令 田中 信隆 様

苫小牧市長 岩倉 博文